

平成 31 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 一般向け講演会 報告書

1. 講演会名：「VR 認知症疑似体験 認知症当事者の体験を学ぶ」
2. 目的：広く認知症について啓発を行うと同時に、講演会を通して若年性認知症当事者の方々の体験を知り、必要とされる支援について考える場とする。
3. 対象：本人、介護家族、一般市民、企業の皆さん、専門職、すべての皆様
4. 方法：前半は㈱シルバーウッドVR 疑似体験プログラムに沿って、講義聴講頂きながら体験頂く。後半は主催者より、沖縄県若年性認知症支援推進事業について報告する。
5. 主催者：沖縄県

(受託先：特定医療法人アガペ会沖縄県若年性認知症支援推進事業担当 新オレンジサポート室)

6. 日 時：2019 年 8 月 3 日(土) 開演時間 午前の部 10 時～12 時、午後の部 14 時～16 時
7. 会 場：沖縄県総合福祉センターゆいホール (〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町 4-373-1)

8. 参加費：無料

9. 配布資料：当日のスライド資料なし。当日受付にて沖縄県若年性認知症支援推進事業年間計画のチラシと相談窓口リーフレットを自由配布した。

10. 申し込み方法：電話 (080-6498-7367) 申込みのみ。

先着順 (定員：午前50名、午後50名) 申込み期間:2019年7/1～7/10 (平日9時～17時)

※台風の際の中止の連絡は、申し込み者のみへ行うとした。

11. 広報

2019 年 4 月 23 日沖縄県若年性認知症支援推進事業より広報チラシ発送 477 件

新聞掲載：2019 年 7 月 1 日 琉球新報社 14 面、沖縄タイムス社 26 面

12. 当日の日程：

午前の部			
	開始時間	終了時間	内容
受付開始	9 : 50		
VR 講演	10 : 00	11 : 30	VR 講演会のプログラムに沿って行われます。
沖縄県若年性認知症支援推進事業より	11 : 30	11 : 45	主催である沖縄県若年性認知症支援推進事業より、県内の若年性認知症者支援について報告致します。
アンケート記入 ・閉会		12 : 00	会場を一旦閉めます。
午後の部			
受付開始	13 : 50		
VR 講演	14 : 00	15 : 30	VR 講演会のプログラムに沿って行われます。
沖縄県若年性認知症支援推進事業より	15 : 30	15 : 45	主催である沖縄県若年性認知症支援推進事業より、県内の若年性認知症者支援について報告致します。
アンケート記入 ・閉会		16 : 00	16時より会場撤収致します。

1 3. 当日運営スタッフ：

司会進行 沖縄県若年性認知症支援推進事業担当 中野
受付対応 沖縄県若年性認知症支援推進事業担当 安次富
会場設営等スタッフ 5名（交通費支給）
VR講演会担当 (株)シルバーウッドVR事業
沖縄県若年性認知症支援推進事業の説明 中野

1 4. 申込み状況：事前申し込み 午前 46 名・午後 49 名 合計 95 名

1 5. 当日参加者：参加者総数 2 部合計 97 名（午前 50 名・午後 47 名）

参加者状況	本人	0 名
	家族	7 名（午前 2 名・午後 5 名）
	一般	14 名（午前 6 名・午後 8 名）
	学生	19 名（午前 11 名・午後 8 名）
	介護職	19 名（午前 10 名・午後 9 名）
	包括職員	18 名（午前 12 名・午後 6 名）
	ケアマネ	12 名（午前 4 名・午後 8 名）
	行政	2 名（午前 2 名・午後 0 名）
	リハ職	2 名（午前 1 名・午後 1 名）
	相談業務	2 名（午前 1 名・午後 1 名）
	看護師	1 名（午前 1 名・午後 0 名）
	事務職	1 名（午前 0 名・午後 1 名）

キャンセル状況 11 名（前日 6 名・当日 5 名）

当日申し込み 13 名（9 名は直前の声かけ、4 名は当日来場）

1 6. 内容

VR体験プログラム業者(株)シルバーウッドについて:鉄販売を経て工務店であったが、介護事業へと展開していった。現在、千葉・東京近郊に 12 のサービス付高齢者住宅を運営している。この施設利用者の声を聴き、VR開発を企画、厚労省補助金を活用し完成に至った。全国で研修会を展開している。運営するサービス付高齢者住宅では、フロアを常に開放し、地域祭りの開催のほか、普段から地域の子供の居場所として提供、駄菓子屋も設置しているが、その販売員は、サ高住の入居者が担っている。平成 30 年度には敷地内にレストランをオープンし、ここでもサ高住の住民が働いている。

VR体験内容について：1. 通所から送迎で自宅に帰る際、送迎バスの乗り降りの場面。踏み台の1段が、車輛の陰と重なり、高層ビルの屋上から下を眺めているように体感したケース。2. 混み合う電車の場面。声をかけられるがどの方向から声をかけられているのか、わからないケース。3. レビー小体型認知症当事者が友人宅を訪ねるが、家のあらゆるところに人の残存があり、携帯電話の充電コードは蛇になってこちらに向かい、出されたケーキからは虫がわき、頭上ではチカチカとした

線香花火のような火花が見えているという体験を再現。(スライド資料なし)
 沖縄県若年性認知症支援推進事業報告(10分):事業の目的とこれまでの実績を報告し、特に沖縄県若年性認知症支援センター配置後の相談件数や内容について報告した。

17. アンケート結果: 回答 92名 回収率 94.8%

問 本日の内容について感想を教えてください

Q. 本日の満足度を教えてください。

大変満足	満足	やや不満	大変不満足	無記入
77.2%	18.5%	0%	0%	4.3%

Q. VR体験で認知症の理解が進んだか

大変進んだ	進んだ	あまり	全く	無記入
70.7%	25.0%	0%	0%	4.3%

問 本日の感想をお聞かせ下さい(自由記載)

(家族)

- ・知識として理解しているつもりでしたが、体験してみても言葉を失うほどでした。改めて本人の声や訴えにきちんと耳を傾け、何が不安だったのか聞くことから始めます。仕事ではそれができても家庭で母親の話を聞くことを、これからちゃんとやっていかねば駄目ですね。母や「大丈夫」の前に「どうしたの?」と聞いていきます。
- ・もっと、より多くの方にVR体験してもらい、当事者の思いを知ってほしい、感じてほしいと思いました。大変だとは思いますが、実現のために尽力してほしい。当事者の声が聞けてよかったです。
- ・当事者の困りごとが体験できたのはとても良かった。VRだけでなく、スライドと説明のおかげで理解が進んだと思う。認知症の理解への入り口にたてた気がします。
- ・また開催してください。もう一度参加してみたい。
- ・人と笑い合うこと、心穏やかに、認知症の人もみんながそう感じられるといいな～

(一般)

- ・認知症のイメージが“がらっと”変わった。接し方がわかったので体験に来てよかったです。
- ・介助者の大丈夫は本人にとっては“大丈夫じゃない”ということに気づくことができた。今日の体験を今後、認知症の方とかかわる際に活かしていきたい。また、私たちが認知症についての正しい知識を持ち、理解を深めることが認知症の方の生きやすい環境につながるのだと感じた。
- ・初めてVR体験を行って、認知症高齢者に対する理解を深めることができた。
- ・言葉でたくさん説明されるよりも、1度実際に体験することで理解が深まりました。
- ・認知症を馬鹿にしたつもりは一切なかったんですけど、自分の心のどこかで認知症の方に対して、腫れものにさわるように、もしかしたら接しているところがあったか

もしもありません。今日のVRを体験して認知症の方に対して異常視せず、変わらず接していきたいです。

- ・実際の認知症の方の視点を体験してみると、自分が少し誤解していた部分とかがなくなったと思うと、改めてどう接したら良いか学ぶことができた。周りにもこの体験を伝えて広めていきたいと思った。

- ・若年性認知症が沖縄に600人いると知った。VR体験を通して、認知症のこと、困っている人に声かけを今以上にやりたいと思った。このようなイベント増やして、いろんな人に知ってほしい。介護施設で働いている人だけでもやった方がいいと思った。

- ・私の亡き母も若年性認知症でした。その母が日常生活を送る中で、どのような思いをしていたのか、知りたいと思い、今回参加しました。VR体験を通して、当時の母にもっとこうして関わればよかったと後悔するところもありますが、これから出会うだろう困っている方に、今日のことを役立てられたらと思います。私が介護をしていたころは制度がまだ整備されておらず、今いろいろ整備されてきていて、ちょっと、うらやましい気もしました。今日は本当にありがとうございました。

- ・認知症の方が見えている世界が少しだけ覗けたと思います。でもその“少し”がすごく大きなことだと感じています。認知症の方が感じる不安を少しでも和らげることができるよう手助けできたらと思いました。本日は貴重な体験をさせていただきありがとうございます。

- ・わからない、経験したことがないということに、誰でも不安を感じるので、認知症であってもさほど、普通の人と変わらないということを知った。誰にでも起こり得る病気なので、多くの人に実体験を知ってほしい。

- ・VR体験とはいえ、当事者の見えている世界や不安を感じることができ、認知症に対する印象が変わりました。私たちも日常の生活で感じている困りごとの延長上にあるならば、「何かお困りですか？」の一言で支えになることができるのだと（特別な専門的知識がなくても）思いました。

- ・沖縄県若年性認知症支援推進事業について、知るチャンスがなかったのもっとPRしてほしい。今回は新聞により知ることが出来たが・・・。

- ・理解が少し進んだ感じがします。周りに気を付けて、少しでも力になれるように頑張りたいと思います。

- ・VRはじめて体験した。最初はうまく操作できず内容がつかめなかったが、回を重ねるうちに理解できるようになった。いい体験ができた。

- ・一般の方向けに、認知症について学ぶ講演会あることは、当事者、家族、施設で働く人、ケアマネ、携わる人にとってプラスになり、とてもいい活動だと思う。小中学校の授業で必ずある「平和授業」みたいに、授業の一環で、是非組むべきだと思った。

(学生)

- ・認知症について、たくさん知ることができました。学校で習うよりも理解しやすかった。

- ・今日体験してみて、とても良い体験ができました。ありがとうございます。想像していた以上にリアルですごく怖かったです。今までと少し考えが変わりました。認知症の人が何も見ているのか知ることができて良かった。

- ・3つの認知症体験をして、認知症の方がこのように苦しい思いをしながら生活して

いるんだなと考えると、心が痛いんです。私がレビー小体病になったら、生きていけるのかなと不安になりました。体験しないと認知症の人たちの気持ちを知ることができなかったと思います。この体験を誇りに思いながら、学校でも頑張っていきたいと思います。

- ・学校で学ぶことのできないことを体験することができて、とても良かった。やはり体で体験することは大切とわかった。

- ・自分達、認知症になっていない人が、生きる世界だけが本当のものではなくて当たり前ではないので、認知症のいろんな中核症状、BPSDに対しても異常視されずに、普通に接して、その上で見守りつつ何かあれば声をかける、小さな介助を増やせられれば、いいなと思いました。とてもためになりました。貴重な体験をありがとうございました。

- ・認知症の方の思い、見え方、感じ方がリアルに体験できた。

- ・VR体験で、自分で感じる事が出来て良かった。明日から気持ちを改めて接していきたい。

- ・教科書や書物だけでは、理解できないことが、体験で学べて大変満足です。認知症の方に寄り添う対応が、できる気がします。

- ・授業で学んだだけでは想像ができなかった認知症についてVR体験をしたことで、どのようなものか、分るようになりました。とくにレビー小体型認知症の症状である幻視が印象的でした。実際に認知症で困っている人がいたら声をかけようと思うようになり、もっと認知症について詳しく勉強したいとあらためて思うようになりました。

- ・今回のVR体験によって、認知症についての種類や特徴についての理解を深めることが出来ました。また認知症について勉強していきたいと思いました。

- ・今日のVR体験は参加してみて良かったと思いました。実際に認知症の立場になって、認知症の方のしている世界を見て、どんなふうに声をかけたらいいのか、どんな対応をしてくれたら嬉しいのかを深く考えさせられる、いいきっかけになりました。将来、高齢者やしょうがい、病気をもった方とかかわる機会が多くなると思うので、今回体験したことを踏まえて、接していけたらいいなと思います。

- ・初めて、認知症VR体験ができて、とても良かったです。普段、認知症の方とは実習などでかかわっていましたが、実際その方が、何を見ているかなどは、わからなかったのが、今日の体験は貴重だと感じました。そして、これからも役立てられると思いました。

- ・認知症の症状だけをわかっていても、自分が病気にならないとわからないことが、疑似体験し、理解を深めることができ、とても良い体験になりました。

(医療福祉関係者)

- ・認知所の方の立場、視点に立ち、声かけの仕方に工夫、改善が必要だと感じました。
- ・良かれと思ってかけていた言葉が本人にとって、混乱を招くことを再確認しました。相手の立場になって察してサポートできましたが、この研修以上に認知症の方の立たれている世界を共感できる研修は無いと思います。普段、サポーター養成講座などで説明する「本人の気持ちになって」の声かけをより深く説明できるようになったかと思っています。この体験をサポーター養成講座でも広めたいと思います。

- ・認知症の方々の視野や考え、困りが体験で見ることができて良かった。声かけの重

要性を実感しました。

・VR体験を通して、認知症本人の気持ちになって、体験することにより、認知症の方へのアプローチの仕方、接し方、気持ちの受け止め方をより一層理解することができました。「僕たちが求めているのは守られることではなく、周囲の手を借りながら、自分でできることは自分でやる。自分でできることを奪わないで下さい」というVTRの若年性認知症本人の方のメッセージに感動。

・知った風に思っていたことがVRを通して、当事者の感覚になれたので、少し理解できた。

・頭では理解しているつもりでしたが、VR後の理解度が違います。専門職が多いので、一般の方に体験してもらいたいです。

・VRの技術で、認知症の世界を体験することで、今まで接していた方が、どういう世界を感じていたか、自分の声かけや介助は適切であったのか？思い返すいい機会になった。単に言葉で説明されるよりも、直感的に理解することができ、より教官できる部分が増えたと思う。

・VR研修をもっと増やしてほしい。認知症の正しい理解を一人でも多くの方々が知ることによって、認知症に対する偏見を減らし、共に住みやすい社会をつくれたらと思います。

・BPSDからくる物忘れから、本人すら気づいていない小さな脳障害症状への注意に目を向けることができました。

・映像では体験は理解を得る早道だと思います。多くの方々に体験してほしい、機会を多くしてほしい。

・とてもよかった。認知症でも私と同じように気持ちを感じているし、いたって普通の人なんだと思った。ぜひ、家族や身近な人にみせてあげたい。多くの方がこの体験で優しい世界をつくっていったらいいなと思う。インタビュー（スライド内当事者）も本当に良かった。

・体験することができて、とても良かったです。病気だけで、その人をラベリングせず、何に困っているか一緒に考えてサポートすることが大切だと思いました。

・何度か研修は受けていますが、きちんと理解できていなかったと感じました。本人の立場になって、見る、知る、感じることで具体的にサポートする方法を考えることが出来ました。多くの人、多くの職種に体験してほしい。一般病院の職員は認知症への思い込みもあると思います。各圏域の病院向けにも研修を開いてほしい。

・初めてVR講演会に参加して、とても良かったです。認知症のことがよくわかりました。否定するのではなく、共感することや一緒になって話を聞くことなどが勉強になりました。とても良かったです。またVR講座してほしい。

・本日本体験して学んだことを職場でも行かせていけるようにしたい。VR体験会、今後も開催してほしい。

・とても良かった。職場や家族（利用者）向けに勉強会として同じ内容のことをやってもらいたいです。

・認知症の研修に多く参加してきたが、これほど当事者の気持ちを知ることができる（実体験）研修はなかったと思います。すごく良かったです。

・幻視が特に衝撃的で、常に幻視と付き合っている当事者の方の気持ちを体験することが出来ました。どう対応する方がいいのかを知ることができたので、これから認知

症の方との関わりに活かしていきたいです。貴重な体験ができて本当に良かったと思います。この体験をするだけでも、認知症の理解につながると思うので、支援者だけでなく、一般の地域の方へもぜひ、体験してもらいたいです。自治会など地域でも体験できたらいいと思います。

- ・VR体験とても良かったです。介護現場で働いていた時に体験していたら、もっと認知症の方に理解したうえで接しられたなど感じました。もっとVR体験できる人を増やし、介護現場に活かしてほしいです。

- ・認知症の方と日々接しており、理解しているつもりだったが、VRで当事者の世界を見た時に「理解しているつもり」であって、十分な理解でなかったと反省させられました。相手の思いを感じ、想像するだけでなく、体験することで、支援の仕方が変わってくると思いました。

- ・本当に有意義な研修でした。実際に体験したからこそ分かること得られることが沢山あり、今日から認知症の方に対する声かけ見方が、すべて変わりました。また企画して、他の大勢の方に理解を深められるようにしてください。

- ・ぜひ、またVR体験の機会を設けてほしい。専門職である私たちが間違っている対応をしていました。反省と同時に、学ぶ、再確認できたことが多かったです。ありがとうございました。

- ・初めてVR体験をしましたが、大変よかったです。当事者の気持ち、思いがより真実に近く、体験することができました。今後も多くの人に体験してもらい、地域で認知症の方が安心して暮らしていける社会になれば、これ以上の幸せなことはありません。大変有意義で気持ちもリフレッシュできました。

- ・視空間認知や見当識、状況など思っていたより何倍も怖かった。とても勉強になりました。VRは体験しないとわからない。もっといろんな方に体験してほしい。認知症への偏見もなくなると思う。

- ・普段、接している利用者さん、その家族さんへの対応方法を考えなおす良いきっかけになった。VR体験をして、今までの認知症の方々への考え方や声かけなど改めていこうと思った。

- ・仕事（介護職・認知症対応型デイ）で、高齢・若年の認知症の方を接していますが、VRで体験すると、更なる、改めて理解が進みました。認知症を世の中に知っていただくのも大切ですが、私たち職員がもっと適切な対応をする勉強が必要と思う。

- ・認知症の方に対する偏見ばかりを持っていたことに気づきました。困っている方がいたら「認知症かどうか」ではなく、声をかけていきたいです。VRで見ることで当事者の方の目線、気持ちを「知る」ことができたと思います。認知症だからではなく、認知症であっても、関わり続けていけるように勉強していきたいです。2020年度の開催もしてほしいです。

- ・どんな知識があっても当事者の話を聞かないと何もはじまらないと改めて感じました。認知症の方が動く、怒るなどには、何か必ず理由があり、話を聞くから始まると思いました。

- ・何がどう見えているのかが、理解できた。認知症の方々の理解をさらに深め、あたたかく接し、安心感を与えられる人間になります。

- ・たくさんの方のことを考えさせられた。私は今日の90分でこの体験を終わることができるが、本人にとっては生活。このような不安な気持ちでいっぱい大変なのに、どうし

て認知症と言えないのだろう。病院受診を拒否するのだろう、と考えさせられました。私達には何ができるのだろう。一緒に生活できるように考えていきたいです。そして、もっと多くの人にVR体験をしてほしいと思いました。

・認知症の方の症状はどんな症状があるということはわかっていると思っていたけど、当事者の体験を通して、「こういう風に見えていて、こういう体験を毎日送っている」と思うと、関わり方を見直し、もっと相手をみながら行わないと、と思いました。

「何を伝えたいか」を読み取る力を磨いていきたいと思いました。

・参加して大変よかったです。VRすばらしいです。もっと多くの方々に体験してほしいと思いました。認知症に対する理解が深くなり、生活しやすくなると思います。

・認知症の方が階段を降りる時、すくみがちになっていることが身体的なものだと思っていたが、VR体験でこういうことがあるんだと、理解することができた。若年性認知症の方はコディネーターが必要だと思います。もちろん、家族、特に子供の心理的支援が・・・。

・レビー小体の体験では、実際の方からの体験をもとに作ってあるということで、とても貴重な経験ができたと思っています。一人でも多く認知症を理解する方が増え、認知症の方が幸せに暮らせる日がくればいいなと思いました。

・若年性認知症の方とお会いしたことがなく、こんなにも症状をわかりやすく説明できるのかを驚きました。認知症の方に、症状や困っていることをもう少し踏み込んで聞いていきたいと思いました。

・私が見えているものが相手も同じように見えていると思わないこと、相手に見えている物が少しでも感じられるような関係づくり、拒む、否定、止めるでは変わらない。自分が当事者になって初めて気づく、わかる疑似体験、本日はいい体験でした。ぜひ、うちの職場同期メンバーにも体験してもらいたいです。

・福祉の仕事をするなかで、認知症について学んできたつもりであったが、今回の公演を受けて、まだ不十分であったり、対応について改めて学ぶことが出来ました。事業所に持ち帰り、職員間で共有し、ケア方法について改めて検討したいと思います。

・こんなにリアルに体験することができてよかった。もっと、本人の声をよく聴いていこうと思う。

・メディアで見たことがありました。今回初めて、実際に体験することで、自分自身の当事者との関わりを改めて見直すことができたと思います。不安をどのように軽減、対応できるか考えていきます。

・共感のギャップ、視空間失認、幻視など、言葉や文章だけでは分かっていたつもりだったが、体験を通して改めて、認知症の方について理解できた。また、県内の現状も知れ、もっと広まり、当たり前前にサポートできる環境作りが出来たらと思いました。手伝えるように頑張りたいです。

16. 主催者の所感

昨年引き続き開催となったVR体験であるが、アンケート結果から、参加者の反響は大きい。認知症啓発においては、当事者の声とVRなどの体験型の学びが、より効果的であることを再確認した。運営については、昨年、講演会に参加された専門職に、今年の運営にかかわって頂いたことで、一般の方の操作補助もスムーズに行えた。心より感謝申し上げます。 以上